

最近、「まぶたが重い、うつうつし」、「高いところの信号機が見にくい」、「目が半分しか開かない」、「眼のような目をしてる」などと言われたり、自分でそう思ったりしたことはありませんか？これらは「眼瞼下垂」という病気の症状です。「眼瞼」とはまぶたのこと、「下垂」とは下がっている状態という意味です。つまり、眼瞼下垂とは上のまぶたが下がってきて、目の邪魔になってしまい、物が見づらくなってしまう病気です。

生まれつきまぶたが下がっている人もいますが、ほとんどの場合は歳を取るとともにまぶたが下がります。これが「老人性眼瞼下垂」です。原因としては、まず、まぶたの皮膚がたるんで下に向かって伸びてしまうことが挙げられます。歳を取ると誰でも皮膚がたるんでしまいますが、まぶたの皮膚がたるみすぎると、まつ毛にかぶつたり、ひどい場合は黒目を隠すほどたるんでしまったりすることもあります。

次に原因としてあげられるのは、まぶたの中にある筋肉です。腕や足と同じように、まぶたの中にも実は筋肉があります。その筋肉が動いて、まぶたは上に持ち上がります。その

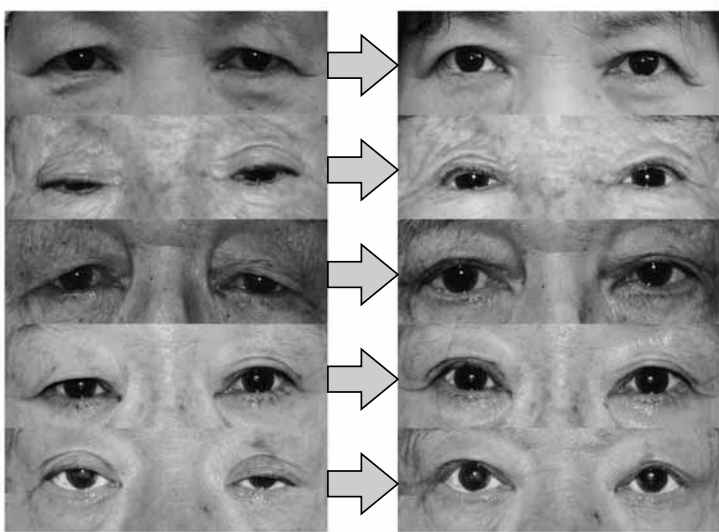
筋肉が歳とともに衰えてしまったり、筋肉とまぶたのくっつきについている部分が緩んでしまったりすると、まぶたが上に持ち上がらなくなるといわれています。手でまぶたを持ち上げたり、テープで固定したりすることで見やすくはなりますが、一日中そうしているわけにもいけませんので、少しでもまぶたが自然に上がるように治療することを勧めます。

老人性眼瞼下垂の治療は手術によって先ほどの原因を解決することです。まずはたるんだ皮膚を取り除くこと、いわゆる切除を行います。そして、筋肉を引き締めるように縫い縮めたり、筋肉のまぶたから離れてしまった部分をくっつけ直したりします。

この手術はほとんどの場合、局所麻酔といって、まぶたに麻酔の注射をするだけで行うことができます。日帰りで行うこともありますが、高齢の方は転んでしまうことがあるので、入院で行うこともあります。また、左右同時に行ったり、片側ずつ行ったり、症状によつ

ては片側だけ行うこともあります。通常は1週間ほどで縫った糸を取り除きます。手術の後はしばらくまぶたが腫れますが、1か月ほどで腫れがなくなり、まぶたが軽くなって、よく開いて、前が見やすくなります。

以上、老人性眼瞼下垂の一般的な症状と原因、治療について記載しましたが、症状や原因は人によって異なり、また、治療方法もほかに色々あります。思い当たる症状のある方はまずお近くの眼科、もしくは形成外科で相談することをお勧めします。



手術前

手術後

日曜・休日に実施している医療機関

午前10時～午後4時

月日	場所	施設名	科目	☎(048)	場所	施設名	科目	☎(048)
3	新座	新座むさし野クリニック	内・アレ・循内	489-5323	新座	梅沢皮フ科クリニック	皮	042-472-5118
10	和光	門田医院	内・循内・皮・小	461-6412	志木	志木江原耳鼻咽喉科	耳	473-7929
8	朝霞	ファミリータイズクリニック	小・アレ	458-5522	朝霞	北あさか城北クリニック	整外・消内・肛・外・リハ	474-9066
24	志木	志木駅前クリニック	内・循内・腎内	473-8101	和光	佐々木眼科医院	眼	467-0071
31	新座	大塚産婦人科医院	産婦・小	479-7802	朝霞	はねだクリニック	内・外・消内・肛・放	469-2139



※当番医は変更になる場合もあります。確認してからお出かけください。